

「一致の基礎」(その第2「からだは一つ」) エペソ4:4-6

堀田修一 19・12・1

I 先行する神の恵み「父なる神の愛・主イエス・キリストの恵み・聖霊の交わり」をいつも覚え、感謝したい。①望み②からだ③御霊④主⑤信仰⑥バプテスマ⑦父なる神。7つの恵み。聖書で7は完全数。

II 教会が「一つのからだ」という意味。これは、非常に重要な問い。「からだは一つ」とは、奥義的で目に見えない霊的な公同の教会(キリストの一つのからだ)のこと。このみことばは、本質的な教会、目に見えない公同の教会(先に天国に行ったクリスチャンと、今地上にいるクリスチャンの集まり)奥義的なキリストのからだである教会を示す。キリストの「からだ(教会)は一つ」だけである。完全で、奥義的な、一つの公同の教会がある。それは、目に見えない教会であり、霊的な教会である。唯一のからだがある。

1. この教会は、全世界の国々の出身からなるあらゆるタイプの人たち、人種、肌の色の異なる人々により、構成されている。しかし、この多様な違いが、この目に見えない奥義的な教会に違和感を与えるものではない。全世界、そして日本の教会の多様性は、キリストの体の豊かさである。※但し、教会と名のつく教会が、神のみことばである66巻の聖書を神の御言葉と信じていないなら、それは、本物の教会ではない。※教会を捜す場合は、その教会が、「聖書を神のみことばと信じているか、命のみことばが語られているか」を判断の基準にして下さい。

2. この公同の教会(キリストの一つの体なる教会)には、旧約時代の神の民も初代教会のクリスチャン達も、この2千年間、先に天国に行かれたクリスチャン達も所属している。また、今、主を信じているあなたも私もこのからだ(使徒信条で告白する公同の教会)に属している。

3. 「からだ(教会)は一つ」の真理を、最も良く伝えているのは、コリントの手紙第Iの12章。①このみことばで、教会における一致の有機的な性質が語られる。教会は、新しく創造されたもので、神は、教会を生み出すことにおいて、世界を創造されたときと同じように、全く新しいことをされた。神は、単に、ユダヤ人と異邦人を集め、両者を合同させられたのではない。神は、主を信じる人々を新しく創造し、新しい御性質を与え、その人々の集まりである教会を新しく創造された。部分、部分の寄せ集めではない。古いものは、壊された。もはや、ユダヤ人、異邦人、どこの国の人であるかの区別はない。このような区別は、神が新しく創造された教会、キリストのからだにおいて廃棄された。このことは、Iコリント12章のからだのたとえから理解できる。からだは、手、足、耳、目、頭、内臓等からできている。しかし、からだは、これらの寄せ集めではない。一つ一つ、無関係に造られ、結び合されたのではない。からだは、もとになる初めの細胞から発達する。各部分は孤立した存在ではない。それらはみな、このもとになる中心的な細胞から成長し、発達する。これが、本質的に、からだが一体である理由である。真の教会(キリストの一つのからだ)は、神が新しく創造されたクリスチャンの集まりである。そこに属する者すべては、御霊によって

新しく生まれ、キリストによって生まれた者、「神の性質にあずかった者」でなければならない。※クリスチャンと呼ばれていても、心に御霊が内住されていない人、御霊によって新しく生まれていない人とは、真の一致は持てない。逆に、御霊により新生した人々の間には、一致、一体性が生まれる。

②一体性の中に多様性がある。教会は、画一的ではない。コリントの手紙第Ⅰには、ある人は「私はパウロにつく」他の人は「私はアポロにつく」別の人は「ケパ（ペテロ）」につく」と言い、分派があった事が記されている。教会が分派から守られる秘訣は何だろうか？それは、一人一人が、人につくのではなく、キリストに結びつくことである。一人一人がキリストにつく時、一人一人の距離も近くなり、主を中心とした一致が生まれる。また、教会がキリストのからだとして一つとされている恵みを覚える事である。世界中の各教会は、皆違う。しかし、皆、共に一つのキリストのからだ（公同の教会）に属している。各教会員も皆違うように神に造られている。しかし、同じ主、同じ御霊が心に宿っておられるので、一つとされ、一つのキリストのからだなる教会に属している。

③教会は、キリストのからだの各器官として相互依存（互いが互いを必要とし、互いに助け合う）の関係にある。からだのどれ一つとってみても、自分で自分を支えたり、他を必要としない器官はない。体全体が足であれば、それは体ではない。体は、様々な器官が神により有機的に結合することにより、一体となり、一つの体となる。各器官は、相互に依存し合っている。目は、手に向かって、私は、あなたを必要としないと言う事はできない。お互いを必要としている。この真理は、教会の互いにもそっくり当てはまる。主の体の各器官である私達お互いは、お互いを必要とし、支え合っている。大切な器官、教会員などはいない。教会において、一人一人の教会員が全体の働きの調和を得る為に、なくてはならない存在である。神に用いられた説教者の言葉：「あなたが教会の一員である事、そして礼拝において一つの席を占めているという、その事実こそが、それだけで、素晴らしい事です」。説教を心から聞いて下さる礼拝出席の皆さんの存在が、どれだけ説教者を励まし、支えている事か！教会において、人々の存在や行為のすべてが関係し合っている。私達は、主に依存し、相互にも依存し合っている＝主を中心として互いに祈り合い支え合う。

④キリストのからだである教会は一つ＝公同の教会。私達が、現に持ち、味わっている恵みは、何という特権だろうか！あなたや私はキリストのからだの一員である。それがキリストに対する私達の関係。キリストが、教会のかしら。私達の手足は、体の頭の命令で動くように、キリストの体である私達は、体の各器官として教会の頭であるキリストのみことばに耳を傾け、それぞれの役割を喜んで果たしたい。主の教会を建て上げる使命と主の福音を人々に伝える使命を果たしたい。クリスマス集会にお誘いする為に、どなたに声を掛けたら良いですかと教会のかしらなる主に祈りたい。あれもこれもと、一人で背負い込み過ぎるのではなく、「主よ。私がなすべき分は、なんですか？」と祈りたい。主の前に静まりたい。「あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です」

Ⅰコリント12：27。一人ひとりに神は、なすべき分を与えられる。感謝から出る奉仕をさせていただきたい！